WATAKEI DX MAGAZINE

Vol. 11

みなさまのDXを
ご支援します

来場者の声から見えた、地域企業のDX最前線

「第46回渡敬ビジネスフェア」の様子を来場者アンケートをベースにレポート

中小企業のためのデジタル化実践事例100

［第5弾］セキュリティ・生成AI活用事例をピックアップ！

来場者の声から見えた、地域企業のDX最前線

6月に開催しました「第46回渡敬ビジネスフェア」では、
AI、業務DX、セキュリティ、建設DX、文具・オフィス環境など、幅広いテーマの展示を行いました。
来場者アンケートからは、最新技術への関心の高まりとともに、
日々の業務課題を解決したいという具体的なニーズが見えてきました。

最新技術を“見て・聞いて・相談できる”場に

今回のビジネスフェアでは、働き方DX・ドキュメント・建設・セキュリティ・総務・労務管理・オフィス空間デザイン・文具サプライなど、多様なテーマを展示しました。来場者からは**「普段の業務では知ることのできないシステムを知ることができた」「最新の商品を見ることができた」「実演を通じて導入イメージが湧いた」**といった声が多く寄せられました。各分野の展示を通じて、**自社の業務課題を見つめ直し、業務改善やデジタル活用の可能性を考える機会**となったことがうかがえます。また、製品やサービスを実際に見ながら、**担当者に相談できる場**としても、多くの来場者にご活用いただきました。

このレポートでは、会場内でも特に関心の高かった**AI・DX・セキュリティ**の各エリアについて、当日の展示・相談の様子と、渡敬DXブースにて実施したアンケート結果をもとに、来場者の関心や課題を詳しくご紹介します。会場での反応とアンケートから見えてきた実態を通じて、AI活用や業務効率化、情報セキュリティについて考えるきっかけとして、ぜひご覧ください。

来場者アンケートから見えた関心テーマ

AI活用への関心が急上昇

生成AI、業務で使えるAI、AIガバナンス、活用事例など、実務利用を前提とした声が多く見られました。

業務DXは“身近な改善”に注目

勤怠管理、WEB請求、電子契約、グループウェア、kintoneなど、日常業務の効率化に直結するサービスへの関心が集まりました。

セキュリティ対策の優先順位

パスワード管理、UTM、クラウド、データ復旧など、何から対策すべきかを知りたいというニーズが見られました。

来場者の声

サービス業 管理職

AIを中心に、人手不足を補うソリューションが紹介されており、今後のビジネス活用に期待が持てると感じました。

製造業 事務職

普段の業務では知ることのできないものやシステムを知ることができました。新しいシステムを取り入れる際の参考になると感じました。

建設業 技術職

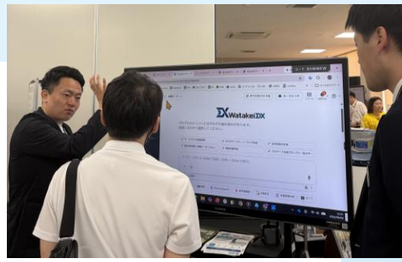
測量機やソフト等が充実していて、新しい測量機やソフトについて勉強になりました。軽食コーナーも良かったです。

サービス業 経営者

事務量の簡素化やAI活用の具体的な説明を受け、刺激を受けました。担当の方が当方の事情に配慮した提案をしてくださるので安心して相談できました。

AI活用エリアレポート

生成AIは“試す”から“業務で使う”段階へ



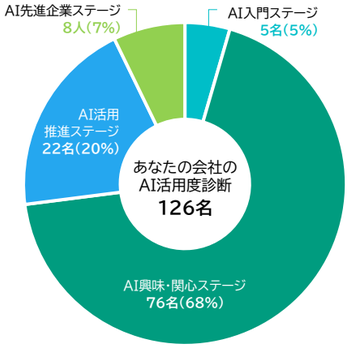
AIエリアでは、生成AIやAI関連製品を通じて、**業務効率化や人手不足対策**につながるAI活用のヒントをご紹介しました。**「生成AIの上手な活用方法を詳しく知りたい」「業務で使えるAIに関心がある」「AIを使用した業務事例を知りたい」**といった声が寄せられ、AIを単なる話題としてではなく、**実際の業務にどう取り入れるか**を知りたいというニーズが高まっています。

特に、**文章作成や情報整理、問い合わせ対応、社内ナレッジの活用**など、日常業務に直結する使い方への関心が目立ちました。また、**AIを活用した人手不足対策や省力化への期待**もあり、今後の業務改善に向けた選択肢としてAIを検討する企業が増えていることが分かります。

あなたの会社のAI活用度はどのくらい？

当日、渡敬DXブースにて、126名の皆様に生成AIに関するアンケート「あなたの会社のAI活用度診断」にご協力いただきました。

結果、**全体の68%が「AI興味・関心ステージ」**に位置し、**AI活用に関心はあるものの、実際の導入・組織的な活用には至っていない企業が最も多い**ことが分かりました。一方で**「AI活用推進ステージ」以上の企業も約27%**存在し、**地域企業の中でも活用度に大きな差**が生まれ始めています。生成AIは既に**「使うかどうか」ではなく「どう活用するか」の段階**に移りつつあることがわかる結果となりました。



結果から分かる3つのポイント

「気になるけど、何もしていない」企業が過半数

回答企業の半数以上が、AIツールの利用者数・予算・推進担当者を「ほとんどいない/確保していない」と回答。AIに関心はあっても、最初の第一歩を踏み出せていない企業が多数を占めました。

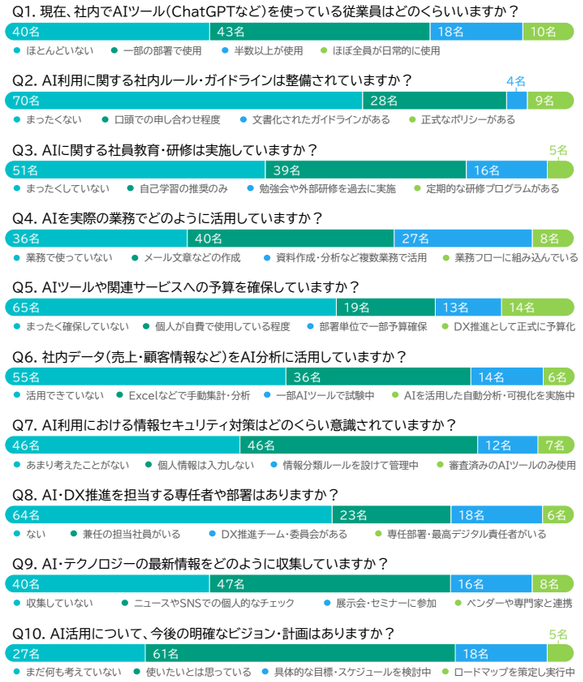
「個人利用」から「組織活用」への壁

資料作成やデータ分析でAIを活用する企業がある一方、社内ルール、セキュリティ対策、研修制度の整備は大きく遅れています。**個人利用が先行し、会社としての仕組み化が追いついていない**実態が明らかになりました。

同じ会社でも「役職」によって評価が違う

同一企業内で複数名が回答したケースを見ると、経営層と一般社員の間でAI活用度の自己評価に差があるケースが確認されました。**「経営層が思っているより、現場は進んでいる(または遅れている)」というズレは、社内でのAI推進を妨げる要因の一つ**と考えられます。

質問



「気づいたら、一歩遅れていた」——にならないために

今、AI活用に着手する企業とそうでない企業の差が広がり始めています。関心はあっても行動に移せていない企業が多く、個人利用と組織活用の壁、経営層と現場の認識差も課題です。まずは現状把握とルールづくりから始めましょう。

DXエリアレポート

現場の課題感と、経営の本気度から見るDXの現在地

DXエリアでは、渡敬の実践事例やグループウェア、勤怠管理システム、ノーコードツールなどをご紹介しました。「業務で使えるツールを知りたい」という声が多く、ツール選びより**「自社業務にどう組み込むか」を知りたいニーズ**がうかがえました。勤怠管理やクラウドサービス、電子契約など**日常業務に直結する分野への関心**が目立つ一方、**「入門的な説明がほしい」という声もあり、必要性を感じつつも着手方法に悩む**様子も見られました。

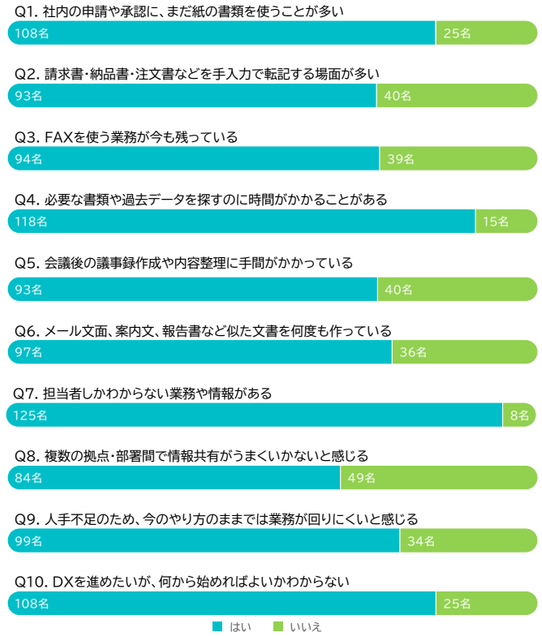
DX推進の鍵は“現場改善”と“経営の本気度”

会場では、133名の皆様に「DX3分診断」、108名の皆様に「社長DX本気度診断」にご協力いただきました。
回答から、**現場が抱える業務課題と、経営層のDXへの向き合い方**が見えてきました。

DX3分診断：133名

会社の業務改善ポイントを判定！

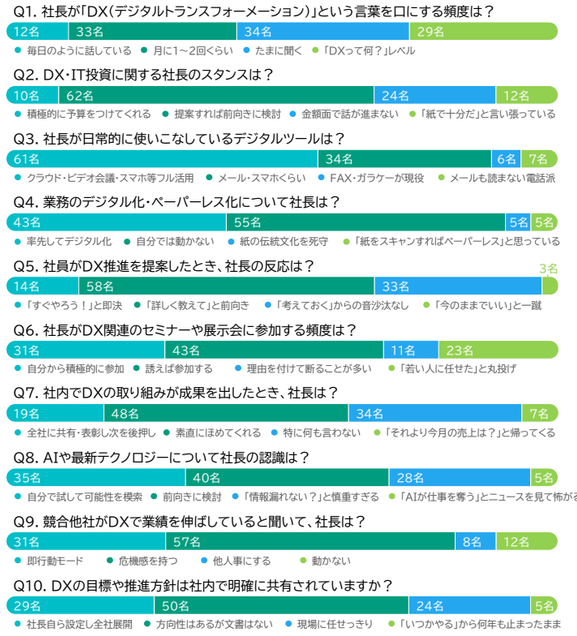
質問



社長DX本気度診断：108名

社員の本音から社長のDX本気度を診断！

質問



課題は「進め方」、背景には「属人化」と「人手不足」

紙・手入力・FAXなどのアナログ業務に加え、情報検索や属人化、情報共有、人手不足が複合的な課題となり、「何から始めればいいかわからない」企業様が多い傾向です。**小さな業務改善から始め、「紙業務のデジタル化」と「情報の一元管理」に段階的に取り組む**ことが有効です。

IT活用は進む一方、DXの”旗振り”には温度差

6割以上が「理解者型」「様子見型」に該当し、ITツール活用自体は進んでいる一方、社長自らDXを言葉にし、目標を社内で共有できている企業は少数派でした。**ツール導入以上に「方針の発信」「共有」が定着の鍵**であり、適切な後押し次第で次のステージへ進める可能性が高いです。

小さな業務改善の積み重ねが、DXの第一歩

DXは、特別な取り組みから始める必要はありません。「時間がかかっている業務は何か」「紙・Excel等への重複入力はないか」「担当者が不在でも対応できるか」。まずはこの3点を確認し、自社に合った方法を選んでいくことが大切です。

セキュリティエリアレポート

対策の「有無」より「自社に合うか」を問う時代へ

セキュリティエリアでは、UTM（統合脅威管理）、パスワード管理、データ復旧、クラウドサービスなど、企業のネットワーク環境を守る製品・サービスを紹介しました。来場者からは、**ネットワーク環境やセキュリティ対策を詳しく知り、自社の対策状況を見直したい**という声が多く寄せられました。

また、AI活用への関心が高まる中、業務でAIを利用する際の個人情報の取り扱いやセキュリティについての相談もありました。**AI導入とセキュリティ対策を併せて検討し、自社の環境に合った具体的な対策**を求める実務的なニーズがうかがえました。

“なんとなく大丈夫”を見直すきっかけに

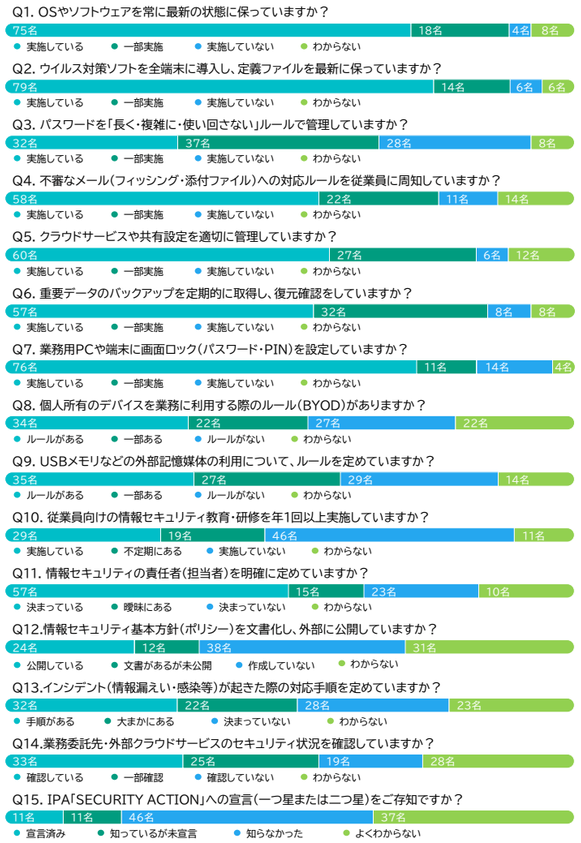
セキュリティに関するアンケートを実施し、105名の方にIPAのSECURITY ACTIONに準拠した「セキュリティ診断チェック」にご協力いただきました。

結果、**約6割が「対策強化」または「緊急対策」を必要とする水準**でした。ウイルス対策やOS更新といった基本的対策は浸透する一方、責任者の明確化やインシデント対応手順など、**組織的な仕組みづくりは未整備の企業様が多い**ことが分かりました。

セキュリティ診断：105名

IPA SECURITY ACTION準拠

質問



結果から分かる3つのポイント

「基本対策」はできているが「組織対策」が手薄

OS更新やウイルス対策など基本対策の達成率は平均約66%と高水準でした。一方、責任者の明確化や方針の文書化、事故対応手順など組織的対策は平均約39%にとどまり、**「モノ」はあっても「ルール」が未整備の企業様が多数派**です。

「持ち出しルール」が未整備

私物端末の業務利用（BYOD）や外部記憶媒体（USBメモリ等）の管理について、「ルールがない」「わからない」と回答した企業様が多数を占めました。**情報の持ち出し経路が管理されていない**状態は、情報漏えいリスクの大きな要因となります。

社内で意識に「ばらつき」がある企業様が多い

同一企業内で複数名が回答したケースを見ると、経営者・管理者と一般社員の間でスコアに大きな差が見られました。**個人の意識任せではなく、社内教育・研修を通じて組織全体で認識を揃える**ことが重要です。

次の課題は仕組みづくりと意識統一

ウイルス対策やOS更新など基本対策は浸透していますが、責任者の明確化やインシデント対応手順の整備、持ち出しルールの整備、社内での意識に課題が見られました。今後は「モノ」だけでなく「ルール」と「人」への投資が鍵となります。

「AI導入に迷っている」「DXの進め方がわからない」「セキュリティが不安」
―― そんなお悩み、お気軽にご相談ください。

中小企業のためのデジタル活用事例100

渡敬デジタル化実践事例特集[第5弾]

渡敬グループのデジタル化実践事例の中から「セキュリティ」と「生成AI」の活用例をご紹介します。
情報を守る「セキュリティ」と、生産性を飛躍的に高める「生成AI」は、これからの企業成長を支える重要な両輪です。デジタル化はコスト削減だけでなく、安全な事業継続と効率的な働き方を実現します。ぜひ貴社の「守り」と「攻め」のデジタル化のヒントとしてご活用ください。

▸第1弾～第4弾は渡敬DX通信アーカイブをチェック！

セキュリティ

SECURITY ACTION二つ星宣言で信頼向上

IPA　SECURITY ACTION　情報セキュリティ

取引先や官公庁案件では、情報セキュリティ対策状況の提示を求められる場面が増えています。SECURITY ACTION二つ星宣言は、情報セキュリティ基本方針の策定と継続的な対策実施を対外的に示せる制度です。社内ルール整備や従業員教育のきっかけとなり、企業の信頼向上につながります。

セキュリティ対策自己宣言

経済産業省「SCS評価制度」で対策レベルを見える化

サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度　セキュリティ診断

サイバー攻撃対策の重要性が高まる一方で、「何から始めればよいかわからない」という企業も少なくありません。SCS評価制度を活用することで、自社の対策状況を客観的に把握し、優先的に取り組むべき課題を整理できます。継続的なセキュリティ強化の第一歩として活用されています。

AIクラウドカメラで拠点管理を効率化

Verkada　AIカメラ

VerkadaはAIを搭載したクラウド型セキュリティカメラです。工場・倉庫・事務所など複数拠点の映像を一元管理し、不審者や車両の出入りをリアルタイムで把握できます。録画映像も人物や車両などの条件で検索できるため、防犯対策だけでなく管理業務の効率化にも貢献します。

入退室管理システムで重要エリアを守る

入退室管理システム　物理セキュリティ

ICカードや認証システムを活用し、サーバールームや重要書類保管場所への入退室を管理します。誰が、いつ、どこへ入退室したかを記録できるため、不正侵入や内部不正の抑止に効果的です。勤怠管理システムとの連携により、セキュリティ強化と業務効率化を同時に実現できます。

AI・自動化

補助金活用をAIで効率化

生成AI　補助金活用

補助金や助成金の制度は毎年内容が変わり、対象要件や申請条件も複雑化しています。生成AIを活用することで、業種や従業員数、導入予定の設備・システム情報をもとに、活用できる可能性のある制度を効率的に整理できます。制度調査にかかる時間を削減できるだけでなく、設備投資やDX推進に向けた計画立案のスピード向上にもつながります。IT導入補助金などを活用した提案活動の支援にも期待されています。

音声入力で現場報告書を自動作成

生成AI　現場業務改善

設備点検や保守作業、建設現場では、作業終了後の報告書作成に多くの時間がかかっています。生成AIを活用することで、現場担当者がスマートフォンから音声で報告内容を入力するだけで、報告書や日報の形式に自動変換できます。入力漏れや記載内容のばらつきを減らしながら、事務作業の負担を軽減できるため、現場業務の効率化と生産性向上に貢献します。

AIロールプレイで営業人材を育成

生成AI　人材育成

営業担当者の育成では、実践的な商談練習の機会を確保することが課題となっています。AIを活用したロールプレイシステムでは、AIがお客様役となり、商品説明やヒアリング、課題提案などの練習を行うことができます。業種や商材に合わせたシナリオ設定も可能で、新人教育から提案力向上まで幅広く活用されています。人材不足が進む中、効率的な営業教育手法として注目されています。

問い合わせ分析で顧客ニーズを可視化

生成AI　顧客分析

企業には日々多くの問い合わせやサポート依頼が寄せられています。生成AIを活用して問い合わせ履歴やメールの内容を分析することで、頻繁に発生している課題や要望を可視化できます。顧客が求めている情報や改善ポイントを把握することで、FAQの整備やサービス改善、営業提案の強化につなげることが可能です。蓄積されたデータを有効活用し、顧客満足度向上を支援する取り組みとして注目されています。

AIで展示会・イベント後の営業フォローを支援

生成AI　営業支援

展示会やセミナー終了後は、名刺情報やヒアリング内容の整理に時間がかかります。生成AIを活用することで、商談内容を要約し、お客様ごとのフォロー内容や提案ポイントを整理できます。営業担当者の対応漏れ防止と、提案活動の迅速化につながります。

AIで社内問い合わせ傾向を分析

生成AI　業務改善

「同じ問い合わせが何度も来る」という課題はありませんか。AIがメールや問い合わせ内容を分析し、よくある質問や業務上の課題を可視化します。FAQ整備や業務改善の優先順位付けに活用でき、問い合わせ対応工数の削減につながります。

編集後記

渡敬DX通信11号をご覧いただき、誠にありがとうございます。今号では、渡敬ビジネスフェアの様子を来場者アンケートをもとに、レポートしました。あわせて、渡敬デジタル化実践事例特集第5弾も掲載しています。掲載事例以外にも、様々な事例や幅広いツールをご相談いただけます。次号も、皆さまにとって役立つ情報をお届けできるよう努めてまいります。今後ともDX通信をよろしくお願いいたします。

いつでもご紹介・デモ・セミナーに伺います！

以下ツールについて、担当が製品紹介や活用例等をご紹介いたします。
詳細は担当営業または下部QRコードからお問い合わせフォームまでお気軽にご連絡ください。

自分で業務アプリを作成

RICOH kintone plus

現場の業務に合わせて簡単にアプリを作れるクラウドサービス。紙やExcel管理をなくし、チームで共有・改善を進められます。

社内の情報をデジタル化

NI Collabo 360

スケジュールや文書管理、申請業務を一元化するグループウェア。社内の情報共有を効率化し、コミュニケーションを強化します。

生成AIの様々な活用法・事例紹介

ChatGPT　Copilot　Gemini

文章作成や要約、資料作りを支援する生成AI。自然な会話で指示でき、業務のスピードアップや新しい働き方を実現します。

オフィス必須の基本ツール活用法

Microsoft 365

WordやExcel、Teamsなどをクラウドで利用可能。場所を問わず共同作業ができ、チーム全体の生産性向上を後押しします。

渡敬伴走支援サービス

社内業務のデジタル化・DX化にお悩みの方へ

デジタル化の必要性を感じつつも、導入方法から活用、費用対効果など、お悩みではありませんか？
渡敬伴走支援サービスは、社内業務のデジタル化、各種ツールをお客様自身が活用していけるように支援を行います。

01 デジタル化経営伴走支援

全3回のワークショップを基本として、
お客様の社内業務におけるデジタル化を進めていくための支援を行います。

02 kintone活用伴走支援

kintoneでの**アプリの作成方法や設定方法、他アプリとの連携やプラグインの導入などの支援**を行います。

03 グループウェア活用伴走支援

業務に合わせた活用方法を提案し、社内定着の支援を行います。

04 社内生成AI活用伴走支援

社内生成AIを活用して、
お客様の業務を改善する支援を行います。

05 Microsoft365活用伴走支援

Microsoft365の**各ツール(Word, Excel, Teams, SharePoint等)をお客様が使いこなしていけるように支援**を行います。

06 DX認定伴走支援

国が定める法律に基づいた**「DX認定」を取得できるよう、弊社の経験を活かした支援**を行います。

DX認定

DX学校　秋田渡敬校

生徒募集中

社内のIT人材を3ヶ月で育成します　DX学校

DX学校は、ITに詳しくない中小企業に寄り添います。
オンライン学習システムで学んだ内容を講師との実践型授業で復習し、わからないままにせず進められます。
担当講師が個人個人に寄り添ったサポートで学びを提供し、受講生の成長に並走します。

▼ 詳細は下部QRコードから

WatakeiDX
株式会社渡敬 DX推進グループ ／ 渡敬情報システム株式会社 DX推進グループ

渡敬DX通信に関してのお問い合わせ、ご意見は右のQRコードを読み取り、フォームからご入力ください。

2026年8月20日 発行